

歯周病の全身への影響

歯周病はお口の中だけの問題ではなく、全身に様々な影響を与えます

【糖尿病】

歯周病になっている部分から出るサイトカインという物質は血糖をコントロールするインスリンを阻害し、血糖のコントロールがしにくくなります。また、糖尿病は免疫を低下させるため、歯周病が発症・進行しやすくなります。

歯周病と糖尿病は並行した治療が必要です。

【心疾患・脳血管疾患】

歯周病の治療後や歯みがき時には、一過性の菌血症(※1)が起こり、口腔内の細菌が心内膜に付着して心内膜炎を誘発することがあります。

歯周病菌の毒素が歯肉に侵入し、血流によって動脈でアテローム性プラーク(※2)を形成します。それが流れ出し、細い血管で血栓形成を起こすと心筋梗塞、脳梗塞など引き起こします。

(※1 血流中から細菌が一過性に検出されるが全身症状が現われていない状態 ※2 歯垢とは異なる粥状の血管沈着物)

【誤嚥性肺炎】

歯周病だとお口の中の細菌が多く、要介護の高齢者などで咳反射の機能が低下していると、細菌を誤嚥して肺炎が起きやすい状態となります。

【早産・低体重児出産】

歯周病になっている部分から出るサイトカインという物質が妊娠の早い時期に子宮に到達すると、子宮が早期に収縮し、早産や低体重児出産になる可能性があります。

【骨粗しょう症】

歯周病になっている部分から出るサイトカインという物質は骨の代謝に影響を及ぼします。

また、全身の骨がもろくなるとともに、歯を支えるあごの骨ももろくなるため、歯周病が進行しやすくなります。

歯周病と糖尿病・骨粗しょう症の発症・進行には相互に関連性があるため、並行した治療やフォローが必要となります。

